

極早生えん麦「たちいぶき」の秋播き栽培での生育特性

桂 真昭・松浦正宏¹⁾
(九州沖縄農業研究センター・¹⁾元九州農業試験場)Masaaki KATSURA and Masahiro MATSU-URA:
Growth Characteristics of the Early Forage Oats 'Tachiibuki' for Fall-Sown Cultivation

えん麦の秋播き栽培は、10月末から11月中旬に播種して翌年の春に収穫する体系で、南九州を中心に行われているが、倒伏による被害が問題となっている。九州沖縄農業研究センターでは、8月末から9月中旬に播種して年内に出穂させて収穫する夏播き栽培に適した品種の育成に取り組んでおり、1996年に「はえいぶき」、2000年に「たちいぶき」を育成した。「たちいぶき」は耐倒伏性と冠さび病抵抗性に優れた品種であり¹⁾、秋播き栽培でもその優れた耐倒伏性を発揮することができれば、倒伏による被害を軽減できると考えられる。したがって、今回は「たちいぶき」の秋播き栽培での生産力検定試験を2年間実施し、その利用の可能性を検討した。

1. 材料および方法

夏播き用品種である「たちいぶき」、「はえいぶき」、「スーパーハヤテ隼」、「ウエスト」の4品種を供試した。1プロット6 m²(条長4 m×条間0.3m×5列)とし、4反復乱塊法で配置した。播種量は6 kg/10aとし、1999年11月2日および2000年11月7日に播種し、それぞれ2000年5月12日、2001年5月1日に刈取調査を行った。施肥量は、基肥としてN、P₂O₅、K₂Oを成分でそれぞれ0.5、1.0、0.5kg/a、追肥としてN、K₂Oを成分でそれぞれ0.5kg/aを播種翌年の早春に施用した。

2. 結果および考察

第1表に秋播き栽培における生育特性を示した。夏播き栽培での「たちいぶき」の出穂は、「はえいぶき」や「スーパーハヤテ隼」より1週間程度遅い¹⁾が、秋播き栽培ではその差は2日となり、「ウエスト」より4日早かった。収穫時の生育ステージを示す穂の熟度は乳熟期に達し、乾物率も25%と「スーパーハヤテ隼」と同程度に高かった。「たちいぶき」の収穫時における罹病程度の評点が5.8とやや高くなっているが、試験期間中に冠さび病の病徴はみられず、これは葉枯れ病によるものであった。「たちいぶき」の収穫時の倒伏程度は供試品種中最も低く、夏播き栽培と同様に優れた耐倒伏性を示した。2001年は倒伏が発生する前に収穫できたので、第1表に示した値は1年目の結果であるが、2000年播種の生産力試験と平行して実施していた採種量検定試験(条間を0.5m、列数を3とした以外は生産力検定試験と同様)では5月3日に倒伏が起り、1年目の生産力検定試験と同様な傾向がみられた(第1図)。秋播き栽培での収穫期は4月下旬から5月中旬になるが、その時期の「たちいぶき」の倒伏程度は低く、他品種よりも倒伏による被害を回避できると考えられる。また、生育ステージが進むと「スーパーハヤテ隼」や「ウエスト」の倒伏程度は激しくなるが、「たちいぶき」の耐倒伏性は安定して

おり(第1図)、収穫が遅れた場合の「たちいぶき」の有利さを示している。「たちいぶき」の秋播き栽培での草丈は供試品種中最も短程であった。「たちいぶき」の乾物収量は2年間の平均で139kg/aと、「スーパーハヤテ隼」や「ウエスト」に比べて低収であったが、「はえいぶき」より多収であった(第1表)。

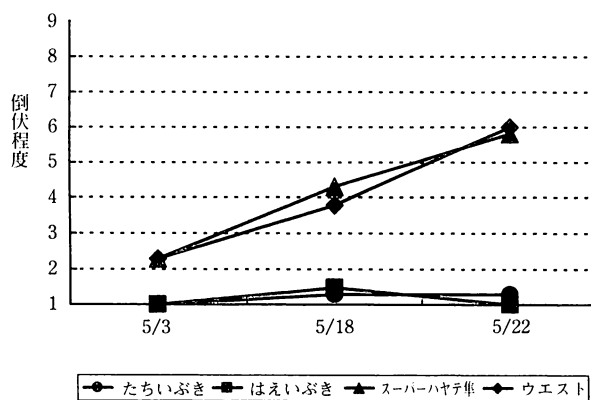
以上のように、秋播き栽培での「たちいぶき」は、出穂に関しては現在の品種中で最も早いグループに属し、耐倒伏性は最も優れていた。したがって、乾物収量の点では多少劣るものの、耐倒伏性が非常に優れていることから、秋播き栽培の安定収穫に寄与できると考えられる。

第1表 秋播き栽培での「たちいぶき」の出穂期と収穫時の特性
(2000、2001年の平均)

品 種 名	出穂期 (月.日)	罹病 程度 ^{a)}	倒伏 程度 ^{a)}	草丈 (cm)	穂の熟度	乾物率 (%)	乾物収量 (kg/a)
たちいぶき	4.16	5.8	3.5	115	乳熟	25	139 (106) ^{b)}
はえいぶき	4.14	4.9	6.5	132	乳熟	21	131 (100) ^{b)}
スーパーハヤテ隼	4.14	4.1	9.0	152	乳熟	25	152 (116) ^{b)}
ウ エ ス ト	4.20	5.8	8.8	141	未乳~乳熟	22	156 (119) ^{b)}

注) a): 1無・微~9甚

b): ()内は「はえいぶき」を100とする指数



第1図 採種量検定試験における倒伏の発生程度 (2001年春)

注) 倒伏程度の評点は、1無・微~9甚

引用文献

- 1) 桂 真昭・松浦正宏・長谷 健・上山泰史・大山一夫: 日草九支 31, 57-59, 2001.